

事務事業名		特別支援学級助成事業		事業区分		担当	
				新規/継続	継続	事務事業No.	020102000151
政策体系上の位置付け				単独/補助	単独	所属課 課長名 グループ 担当者名	090801 教育指導課
政策体系	総合計画の施策名	0201	学校教育の充実				
	政策名	02	生きがいを育む学びのまちづくり				
	施策名	01	学校教育の充実				
	手段名	02	②教育体制の充実				
財務会計上の位置付け				事業期間			
予算科目	会計	款	項	目	事業	細	一般会計
	01	10	01	03	01	00	教育指導事業
法令根拠	桜川市特別支援学級事業補助金交付要項						

(4) 当該年度の実施内容	05年度の事業内容	06年度の事業内容	07年度の事業内容
※年度ごとに事業内容を記入する	桜川市の特別支援学級在籍する児童・生徒に対して日常と異なる場で、いろいろな活動を体験させ、基本的な知識や技術を取得させることを目的として補助金を交付している。	桜川市の特別支援学級在籍する児童・生徒に対して日常と異なる場で、いろいろな活動を体験させ、基本的な知識や技術を取得させることを目的として補助金を交付している。	桜川市の特別支援学級在籍する児童・生徒に対して日常と異なる場で、いろいろな活動を体験させ、基本的な知識や技術を取得させることを目的として補助金を交付している。

事務事業名	特別支援学級助成事業	事務事業No.	20102000151	所属課	教育指導課
(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？					
真壁町と大和村の教育研究会合同事業として、10年以上前から行っている。合併後は、3台の庁用バスを使い、継続して行っている。市内の特別支援学級の児童生徒が一堂に会し、それぞれの役割分担を果たしたり、多くの友達と交流したりすることにより、協力する心や責任のある態度を養ったることができる貴重な機会となっている。					
(6) この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者）からどんな意見や要望が寄せられているか？					
特別支援学級に在籍する異学年の児童生徒が交流する場を定期的に設けることが望ましい。					

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評 価 項 目	
現 状 維 持	①政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？)
	☒ 結びついている 個別の支援を必要とする児童生徒が、役割分担を果たしたり、多くの友達と交流したりする活動は、生き甲斐を育む教育の一環として貴重な機会となっている。
	②公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？) (法定受託事業はその名称)
	☒ 妥当である 市内全ての小・中・義務教育学校の特別支援学級に在籍する児童生徒を対象として行っており、公共性がある。
有 効 性	③成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？)
	☒ 向上余地がない 内容を吟味して実施することで、児童生徒のキャリア教育と結びつけることができ、より成果を上げることができる。
	④廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？)
	☒ 影響有 市内全ての小・中・義務教育学校の特別支援学級に在籍する児童生徒が交流する機会であるばかりでなく、県内の特別支援学級に在籍する児童生徒の作品鑑賞をする貴重な機会にもなっている。
効 率 性	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか？(市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合) ⇨ 具体的な手段、事務事業名
	☒ 余地がない 独自性がある事業であり、他の事業との統合は難しい。
	⑥事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか？やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか？)
	☒ 削減余地がない できる限り庁舎のバスを使用するなど、事業費の削減に努めている。
公 平 性	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？)
	☒ 公正・公平である 市内全ての小・中・義務教育学校の特別支援学級に在籍する児童生徒を対象としており、不公平ではない。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性（次年度計画と予算への反映）

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括（振り返り、反省点）																		
①目的妥当性 ■ 適切 □ 見直し余地あり ②有効性 ■ 適切 □ 見直し余地あり ③効率性 ■ 適切 □ 見直し余地あり ④公平性 ■ 適切 □ 見直し余地あり	⇨	特別支援学級に在籍する児童生徒が交流しながらものづくりを体験することができた。日常的に他校の異学年児童生徒が交流するには交通手段の確保等が難しいため、年に1度の合同交流会は貴重な機会となっている。																		
(3) 今後の事業の方向性		(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																		
☐ 終了 ■ 継続 ☐ 改革改善を行う ☐ 廃止 □ 休止 ☒ 現状維持		(複数回答可) ☐ 目的の再設定 ☐ 効率性の改善 ☐ 有効性の改善 ☐ 公平性の改善 ☐ 統廃合ができる ☐ 連携ができる																		
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策		<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">成 果</th> <th>向上維持</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成 果	向上維持		○		低下			
		コスト																		
		削減	維持	増加																
成 果	向上維持		○																	
	低下																			
		(6) 事務事業優先度評価結果																		
		成果優先度評価結果	②																	

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価		(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)	
課長確認後の評価		確認欄	
☒ A A：継続（現状維持） B：継続（改革改善を行う）	C：終了、廃止、休止 D：2次評価へ提出	☐	